

火傷病侵入警戒に関わる緊急調査研究

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構果樹研究所 島根孝典

2 研究期間

2005年度(1年間)

3 研究目的

火傷病は我が国未発生の植物細菌病であり、我が国に侵入・定着した場合のナシ及びリンゴの果実生産に及ぼす影響は大きい。本病の定着を阻止するには侵入警戒調査による早期発見と組織的な撲滅事業を実施する必要がある。このために、病原細菌の検出、同定方法の評価、火傷病菌宿主植物栽培地域における類似病害の調査及び本病の病徴診断法と防除技術に関わる情報収集を実施する。

4 研究内容及び実施体制

① 火傷病菌の検出、同定方法の検証及び評価((独)果樹研究所、(独)中央農業総合研究センター)

既存の報告で火傷病菌の検出、同定に使用された選択培地、血清反応及びPCRプライマーについて、その有効性を検証、評価する。また、市販簡易同定キット利用の可能性を検討し、火傷病菌のデータをデータベースに追加してその有効性の検証を行う。

② リンゴ及びナシの主要生産地域における火傷病の無発生調査((独)果樹研究所、青森県農林総合研究センターりんご試験場、長野県果樹試験場、長野県南信農業試験場)

ナシ、リンゴの生産園地において火傷病類似症状の発生調査を行う。類似症状については試料を採取し、顕微鏡による観察、病原菌の分離等により病原菌を特定するなど発生原因を明らかにする。

③ 火傷病発生国における病徴診断技術の習得及び防除等の情報収集((独)中央農業総合研究センター、(独)果樹研究所、青森県農林総合研究センターりんご試験場、長野県果樹試験場)

火傷病の病徴診断方法に関する技術習得を火傷病発生国において行うほか、火傷病の生態及び防除に関する情報を収集する。

5 目標とする成果

既報の火傷病菌の検出法、同定方法の有効性評価、火傷病の肉眼による病徴診断技術の習得及び発生生態や防除法に係る最新の知見・研究情報の収集、リンゴ及びナシにおける火傷病類似症状の原因解明による火傷病の未発生確認等により基礎的知見が集積され、火傷病侵入警戒調査並びに万一の火傷病発生時の緊急対応への反映が期待される。

火傷病侵入警戒に関わる緊急調査研究

